

活動に連続性を 持たせ意欲を伸ばす

2013年度から新課程が実施となる英語は、他教科からの影響を受けることはあまりないようだ。12年度は新課程で求められる「英語で授業を行う」準備の年としたい。

授業構成を模索する1年に

2012年度の入学生を指導するに当たり、まず把握しておきたいのは、生徒が中学校でどのような指導を受け、何が出来て、どこでつまづいているかである。中学校では12年度に新課程が全面实施となるが、それを受けて、指導内容や授業の進め方にもどのような変化があるのか。中学校で増えた学習内容は、教科書を見るなどして確認する必要があるだろう。

また、11年度中に新課程の伝達講

習会は終了しており、校内で新課程での指導について話し合う土壌は出来ている。13年度からの3年間で生徒にどのような力を付けていくのかを共有し、目標達成のためにどのような授業を行っていけばよいか、教科内で検討したい。

生徒の学力に適した活動を

授業構成を考える際に留意したいのは、「英語で授業を行う」というのも、日本語が全く介在しないわけではないということだ。全てを英語で行う授業は、生徒にもある一定以

上の力を求めるものであり、相当の集中力が必要とされる。英語での発話を軸としながらも、生徒の理解を助けるために日本語を使用していくことも必要になる。では、どの場面で、どの程度、英語を取り入れるのか。それは学年や時期、生徒の学力によって異なる。自校の生徒にはどのような授業構成が適しているか、生徒の実態を把握しつつ検討したい。

また、活動を単発で終わらせず、1コマ、1単元、1年間、3年間で力が付くように、連続性と目的を持たせるよう工夫したい。1コマの授業を例にすると、レッスンに登場する主な語彙のクイックレスポンスをした後、その単語を使った英語のクロスワードを答えさせ言葉の輪郭を理解させる。レッスンを全体をリスニングしながらスラッシュを入れさせ、ペアワークで段落ごとに相互訳をさせる。このように、一つの素材を扱う中で、さまざまな技能を使いながら活動に連続性を持たせ、内容把握につなげる流れも考えられる。生徒は達成感を持つことができ、意

欲の向上につながるのではないか。それぞれの活動に Can-do リストを作ることも有効だろう。例えば、スラッシュリーディングが出来るようになるために、1年生のこの時期に何が出来るようになっていけばいいのか。目標到達までのステップを設け、それを基に授業構成を組み立てることも考えられる。

英語を学び続ける姿勢をつくる

授業で生徒が英語で発話をする機会が多くなることから、家庭学習においても音読を促すような指導が有効だろう。発音も予習しておけば、授業で自信を持って声を出せる。併せて、単語を書く練習も行わせ、音声とスペルを結び付けさせたい。

また、1年生の授業で辞書を引く習慣をつけさせ、家庭学習や自律的な学習につなげることも有効ではないか。辞書は自分で疑問に思ったことを解決できる手段の一つである。分からないことがあればまず辞書を引き、それでも分からなければ先生に質問をする。自律的な学習者を育てるための辞書指導も検討したい。

*理科と英語についても、数学と同様に現場の先生から伺った内容を基に編集部でまとめています